

28TM-am07

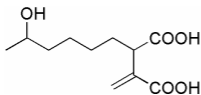
海洋由来 *Aspergillus* 属真菌が産生する新規イタコン酸誘導体の構造

○津幡 知侑¹, 加藤 光¹, 伊達 絢一郎¹, 川畑 哲郎¹, 内田 千晶¹, 高野 文秀¹, 太田 富久¹ (¹金沢大院薬)

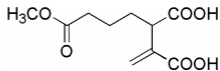
【目的】今日までに陸上由来真菌からペニシリンやストレプトマイシンなどの多くの有用な医薬品リード化合物が単離されている。一方、海洋由来真菌はその生活環境の違いから、陸上由来真菌とは異なる多彩な 2 次代謝産物を産生することが明らかになっている。本研究では、海洋由来真菌の代謝産物に着目し、薬理的に興味深い活性を示す化合物、もしくは、新規な構造を有し化学的に興味深い化合物を見出すことを目的とした。

【方法】石川県白山市の海岸で採集した生物から真菌を単離し、500 枚の麦芽エキス培地 (2.0% malt extract, 0.5% pepton, 1.5% agar, 100% sea water) 上で培養した (28°C)。16 日後、培地を MeOH で抽出し、得られたエキスを液液分配して 90% MeOH 層、Hexane 層、BuOH 層、H₂O 層に分けた。それらのうち 90% MeOH 層を SiO₂ と ODS を担体としたカラムクロマトグラフィーに付し分離・精製した。

【結果】2 種の新規化合物 (1, 2) を含むイタコン酸誘導体 4 種を単離した。平面構造は 1D-, 2D-NMR および MS などの各種スペクトルデータを解析し、決定した。現在、絶対立体配置について検討中である。



1



2